

市立豊中病院の がんの手術 2025



- 手術技能に関する有資格者一覧
- 実施しているがんの手術とその実績
- がんの手術に関連した当院の取り組み



ごあいさつ

このたび、市立豊中病院の「がんの手術」について、ご紹介する冊子を作成いたしました。

地域の医療機関の先生方には、いつもお世話になっております。今後とも、市立豊中病院へ、がんの患者さんを積極的にご紹介いただけたらと存じます。

また、患者の皆さんにおかれましては、市立豊中病院ががん手術に力を入れていることをご知りいただき、「がんの手術をするなら、豊中病院で」と思っただけであれば幸いです。



市立豊中病院 副院長／がん診療部長／消化器外科主任部長 今村 博司

当院のがん診療の特徴

市立豊中病院では、住み慣れた地域の中で、高度ながん診療を受けることができます。

○「国指定 地域がん診療連携拠点病院」と「がんゲノム医療連携病院」に指定されています

地域のがん診療の中心的役割を担う病院として、人員、設備、取り組み、実績など国が定める厳しい指定要件を満たしています。また、「がんゲノム医療」を保険診療で受けることができます。

○様々ながんの手術に精通した医師が多数在籍しています

大阪大学の医局から派遣されているがんの手術技能に関する資格を持った専門医が責任をもって手術を担当します。

○診療科間連携や多職種連携を推進しています

がん以外の併存疾患を持っておられても、31の診療科と緊密に連携した診療が可能です。また、医師、看護師、薬剤師はじめ、多くの専門職種が連携して、がんの手術患者さんを支えています。

○医療・介護・公共との連携が強みです

がんの手術を受けられたあとも、必要な医療を切れ目なく提供するために、地域の診療所や介護との連携も推進しています。また、豊中市立病院である強みを生かし、必要に応じて豊中市の関係機関と「医療と公共」の連携を行い、自分らしい生活を送るための支援をしています。

[YouTube](#)で当院のがん診療の特徴を紹介しています



CONTENTS

手術技能に関する有資格者一覧

- ・ 外科系学会による技術認定制度 ～鏡視下手術の有資格者～ P.1
- ・ 外科系学会による技術認定制度 ～ロボット支援手術の有資格者～ P.2
手術支援ロボット ダヴィンチサージカルシステム認定資格者

市立豊中病院で実施しているがんの手術とその実績

- 1. 胃がん 2. 食道がん P.3
- 3. 大腸がん P.5
- 4. 肝がん 5. 胆のうがん 6. 胆管がん P.6
- 7. 膵臓がん P.7
- 8. 乳がん P.8
- 9. 肺がん P.10
- 10. 腎がん 11. 膀胱がん・尿道がん P.11
- 12. 前立腺がん 13. 精巣がん・男性生殖器がん等 P.12
- 14. 皮膚がん P.13
- 15. 子宮頸がん 16. 子宮体がん P.14
- 17. 卵巣がん P.15
- 18. 甲状腺がん 19. 頭頸部がん P.16
- 20. 脳・中枢神経のがん（脳腫瘍） P.17
- 21. 口腔がん P.18

がんの手術に関連した当院の取り組み

- 手術前の準備を丁寧にサポートします ～患者サポートセンター～ P.19
- かかりつけ歯科と連携し合併症を予防します ～周術期口腔機能管理～ P.20
- 安全かつ快適な周術期（手術前から手術後まで）のために
～麻酔科、術後疼痛管理チーム～ P.20
- 術後の体力低下を予防します ～栄養療法とがんリハビリテーション～ P.21
- 様々な術後感染症を予防します ～感染対策室～ P.21
- 身体への負担を少なく ～内視鏡部～ P.22
- がんに伴うあらゆる苦痛をやわらげます ～緩和ケアセンター（緩和ケアチーム）～ P.22
- その他 がんに関するよろず相談 ～がん相談支援センター～ P.23

手術技能に関する有資格者 一覧

がんの手術には、高度で専門的な手術技能が求められます。外科系の学会やロボット支援手術では、確かな手術技能を有する外科系医師に与えられる手術手技認定制度というものがあります。

当院には鏡視下手術やロボット支援手術などにおいて多数の技術指導医・認定医の資格を有する外科系医師が在籍し、信頼性の高いがんの手術を行っていますので、安心してがんの手術を受けることができます。

外科系学会による技術認定制度 ～鏡視下手術の有資格者～

科	氏名	認定資格
消化器外科	部長 清水潤三	日本肝胆膵外科学会高度技能指導医 日本内視鏡外科学会技術認定医(胆のう)
	副部長 鈴木陽三	日本内視鏡外科学会技術認定医(大腸)
	医長 新野直樹	日本内視鏡外科学会技術認定医(胃)
	医長 萩原清貴	日本内視鏡外科学会技術認定医(大腸)
	医長 中島慎介	日本肝胆膵外科学会高度技能専門医
泌尿器科	主任部長 三宅修	日本内視鏡外科学会腹腔鏡技術認定医
	部長 鄭則秀	日本内視鏡外科学会腹腔鏡技術認定医
	医長 佐藤元孝	日本内視鏡外科学会腹腔鏡技術認定医
産婦人科	主任部長 辻江智子	日本内視鏡外科学会技術認定医 日本産婦人科内視鏡学会技術認定医
	囑託 脇本昭憲	日本産婦人科内視鏡学会技術認定医
脳神経外科	部長 西尾雅実	日本神経内視鏡学会技術認定医
	医長 森康輔	日本神経内視鏡学会技術認定医

外科系学会による技術認定制度 ～ロボット支援手術の有資格者～

科	氏名	認定資格
消化器外科	部長 清水潤三	日本内視鏡外科学会 ロボット支援手術認定プロクター (膵切除)
	副部長 鈴木陽三	日本内視鏡外科学会 ロボット支援手術認定プロクター (消化器・一般外科・大腸)
泌尿器科	医長 新野直樹	日本ロボット外科学会 Robo Doc Pilot 国内B級 日本内視鏡外科学会 ロボット支援手術認定プロクター (消化器・一般外科・胃)
	主任部長 三宅修	日本泌尿器内視鏡・ロボティクス学会腹腔鏡技術認定医 日本泌尿器内視鏡・ロボティクス学会 ロボット支援手術プロクター (腎・副腎、膀胱・前立腺)
	部長 鄭則秀	日本泌尿器内視鏡・ロボティクス学会腹腔鏡技術認定医 日本泌尿器内視鏡・ロボティクス学会 ロボット支援手術プロクター (腎・副腎、膀胱・前立腺)
	医長 佐藤元孝	日本泌尿器内視鏡・ロボティクス学会腹腔鏡技術認定医 日本泌尿器内視鏡・ロボティクス学会 ロボット支援手術プロクター (腎・副腎、膀胱・前立腺)

手術支援ロボット ダヴィンチサージカルシステム認定資格者

術者					
消化器外科	清水潤三	鈴木陽三	新野直樹	萩原清貴	松下克則
	大里祐樹				
泌尿器科	三宅修	鄭則秀	佐藤元孝	梅田駿	桧垣朱友子
	町谷成梧	中川絢基			
助手					
消化器外科	今村博司	川瀬朋乃			

1. 胃がん

担当診療科：消化器外科



当院の胃がん手術の特徴

- 内視鏡外科学会の技術認定医による腹腔鏡・ロボット支援手術を得意とし、根治性に加え、低侵襲で安全な手術を行い、早期の社会生活への復帰と健康長寿を目指しています。
- 当院の胃癌治療は、日本胃癌学会認定施設 A(最高レベル)に認定されています。2025年4月現在、認定施設 A は豊能二次医療圏では大阪大学と当院のみです。

当院の胃がん手術の実績(2024年度)

- 胃がん切除術：61例（全例が腹腔鏡下手術。そのうち、23例がロボット支援手術）

地域のみなさんへのメッセージ —胃がん—

- 低侵襲で最先端の医療を安全に提供します。また、がん薬物療法専門医、認定看護師、薬剤師、管理栄養士も常駐しており、胃がんの手術前から手術後までトータルにサポートします。

2. 食道がん

担当診療科：消化器外科



当院の食道がん手術の特徴

- 食道がん治療の選択肢は多岐にわたりますが、患者さんごとの最適な治療を検討し、内視鏡治療から、化学・放射線療法、そして手術まで、幅広くその適応を判断しています。
- 根治手術は、鏡視下での低侵襲手術を基本としています。また、全国でも有数の食道がんの治療実績がある阪大病院と密に連携できる点も、当院の強みです。

当院のがん手術の実績(2024年度)

- 食道がん切除術：5例（全例が胸腔鏡・腹腔鏡による鏡視下手術）

地域のみなさんへのメッセージ —食道がん—

- 低侵襲で最先端の医療を安全に提供します。また、術前、手術、術後を通して、多職種、多診療科が介入し連携することで、周術期医療を幅広くサポートします。

手術担当医師(胃がん・食道がん)



副院長 兼
外科部長 兼
消化器外科主任部長 兼
呼吸器外科部長 兼
がん診療部長 兼
消化器センター長 兼
臨床研究センター長

いまむら ひろし
今村 博司



消化器外科部長 兼
外科部長 兼
がん薬物療法センター長 兼
がんゲノム医療センター副センター長

かわせ ともの
川瀬 朋乃

しんの なおき 新野 直樹	消化器外科医長 兼 外科医長	のま としき 野間 俊樹	消化器外科医長 兼 外科医長
------------------	----------------	-----------------	----------------



当院は 日本胃癌学会認定施設A に認定されています

当院は日本胃癌学会より最高ランクの「認定施設A」の認定を受けています。「認定施設A」は全国で大学病院やがんセンターなども含め149施設、豊能医療圏では阪大病院と当院のみであり(2025年8月時点)、当院の胃がんに対する手術療法や診療体制が極めて高い水準であることが評価されたものです。また、地域の診療所の先生方との連携を大切にしながら、「胃がんになったら、まず当院へ」と安心して選んでいただける体制を整えています。

これからも、地域の皆さまに最先端かつ安全で信頼される胃がん手術を提供してまいりますのでよろしくお願いいたします。

3. 大腸がん

担当診療科：消化器外科



当院の大腸がん手術の特徴

- 患者さん、ご家族の方と相談の上、治療方針を決定しています。初診時から併存症（持病）に関わる他の科の医師、がん関連の認定看護師、医療ソーシャルワーカーの介入、緩和ケアチームの診療も積極的に行っています。
- 2019年にロボット支援直腸手術を開始して以来、結腸も含め累計250例を超えました。
- Lynch症候群などの遺伝性腫瘍の遺伝子検査・遺伝カウンセリングも行なっています。

当院の大腸がん手術の実績（2024年度）

- 結腸癌手術 109件（85件）（ ）は腹腔鏡下手術
- 直腸癌手術 40件（33件）
- ロボット支援結腸癌手術 20例
- ロボット支援直腸癌手術 22例

地域のみなさんへのメッセージ —大腸がん—

- 小さな傷の腹腔鏡手術（疾患によってはお臍の傷だけで済む単孔式手術、ロボット手術を含みます）に力をいれて取り組んでいます。また、併存症（持病）をお持ちの患者さんにも各専門領域、各医療職種との連携で対応します。

手術担当医師（大腸がん）



消化器外科副部長 兼
外科副部長

すずき ようぞう
鈴木 陽三

とみた なおひろ 富田 尚裕	がん診療部 特任顧問(外科兼任)
はぎはら きよたか 萩原 清貴	消化器外科医長 兼 外科医長
おおざと ゆうき 大里 祐樹	消化器外科医員 兼 外科医員

4. 肝がん

担当診療科：消化器外科



当院の肝がん手術の特徴

- 肝部分切除であっても支配領域のグリソンを特定し解剖学的に正しい肝切除術を目指しているため、術後の胆汁漏はとて低率です。また、予防的ドレーン留置も胆汁漏が低率なので行っていませんが、術後の経過は良好です。
- 開腹手術か腹腔鏡手術かの術式決定については肝がんの局在と大きさ、患者さんのご希望を加味して決めています。

当院の肝がん手術の実績（2024年度）

- 肝細胞癌 6例、肝内胆管癌 2例、転移性肝がん 10例

5. 胆のうがん

担当診療科：消化器外科



当院の胆のうがん手術の特徴

- 肝大阪府下ではDPCデータ上で症例数は9番目であり、多くの症例を治療しています。
- 本年度より胆のうがんに対しても腹腔鏡手術を開始しました。

当院の胆のうがんの手術の実績（2024年度）

- 胆嚢がん・胆管がんの根治切除…6例

6. 胆管がん

担当診療科：消化器外科



当院の胆管がん手術の特徴

- 胆管がんは、肝切除術と膵切除術、あるいは両方を同時におこなう必要があります。また、高い診断能と安全に手術ができる技術が必要です。当科では、肝胆膵外科学会の高度技能医の有資格者が2名在籍しています。

当院の胆管がん手術の実績（2024年度）

- 胆管がん根治切除…7例

7. 膵臓がん

担当診療科：消化器外科



当院の膵臓がん手術の特徴

- 膵臓がんは術前化学療法を行ってから手術を行います。膵頭部がんは開腹で膵頭十二指腸切除術を、膵体尾部がんは可能であればロボット支援下膵体尾部切除術を行います。
- 大阪府下では DPC データ上で症例数は7番目であり、多くの症例を治療しています。

当院の膵臓がん手術の実績（2024年度）

- 膵がん切除術 25 例

地域のみなさんへのメッセージ

ー肝がん、胆のうがん、胆管がん、膵がんー

- 腹部超音波検査や CT 検査で異常があればいつでも当科にご紹介ください。精査させていただきます。

手術担当医師（肝がん・胆のうがん・胆がん・膵臓がん）



しみず じゅんぞう
清水 潤三

医務局次長 兼
外科主任部長 兼
消化器外科部長

なかしま しんすけ 中島 慎介	消化器外科医長 兼 外科医長
まつした かつのり 松下 克則	消化器外科医長 兼 外科医長

8. 乳がん

担当診療科：乳腺外科



／形成外科



当院の乳がん手術の特徴

(乳腺外科)

- 手術、全身薬物療法、放射線療法を複合させて治療を行います。
- 手術は大きく分けて乳房切除術（いわゆる全摘）と乳房部分切除術（いわゆる温存）、腋窩リンパ節に対しては、センチネルリンパ節生検あるいは腋窩リンパ節郭清術を行います。また乳房再建術も形成外科と連携して行っています。
- 遺伝性乳癌卵巣癌症候群に対する予防的乳房切除術にも対応しています。

(形成外科)

- 乳腺外科との合同手術で皮弁を使用した1次1期再建やティッシュエキスパンダーを使用した1次2期再建を主に行っていますが、他院で乳癌手術を施行した後の再建（2次再建）にも対応しています。
- 過去にシリコンインプラントで乳房再建を行った症例で、破損が疑われる場合や自家組織再建への変更希望があれば、対応します。

当院の乳がん手術の実績（2024年度）

(乳腺外科)

- 乳腺悪性腫瘍手術 乳房切除術 腋窩郭清を伴わないもの 67 例
- 乳腺悪性腫瘍手術 乳房部分切除 腋窩部郭清を伴わない 41 例
- 乳腺悪性腫瘍手術 乳房切除術 腋窩鎖骨下部郭清を伴う 胸筋切除を併施しない 23 例
- 乳頭温存乳房全切除術 3 例

(形成外科)

- 広背筋皮弁による乳房再建 5 例
- DIEP 皮弁による乳房再建 1 例
- ティッシュエキスパンダー挿入術 1 例
- インプラント挿入術 2 例
- 乳輪乳頭再建術 1 例

地域のみなさんへのメッセージ —乳がん—

(乳腺外科)

- 当院は地域随一の規模をもつ総合病院である利点を活かし、最新の薬物療法を含め、ほとんどの治療が可能です。乳房に何らかの症状のある方は、お気軽にご相談ください。

(形成外科)

- 乳房再建方法として、人工物を使用する場合や自家組織を移植する場合があります、当院ではいずれも対応可能です。
- 乳房再建を考えている場合は、地域医療連携室を通して当科へご予約ください。

手術担当医師(乳がん)



乳腺外科主任部長 兼
外科部長

あかぎ けんぞう
赤木 謙三



形成外科医長

まえだ だいすけ
前田 大介



乳腺外科部長

とよだ やすひろ
豊田 泰弘

おおくぼ りょうへい
大久保 遼平

形成外科医員

9. 肺がん

担当診療科：呼吸器外科



当院の肺がん手術の特徴

- 肺癌・転移性肺腫瘍（大腸癌、乳癌、泌尿器癌など）・縦隔腫瘍などの手術を行っています。
- 傷が小さい胸腔鏡手術、肺の切除量を少なくした縮小手術にも取り組んでいます。
- 手術適応でなかった進行癌でも手術前に薬物療法を行うことで手術適応になる症例もあり、呼吸器内科とも毎週症例検討を行い治療方針を決定しています。
- 併存疾患（持病）のある患者さんにも、各分野の専門家と連携し、手術を行っています。

当院の肺がん手術の実績（2023年度）

- 原発性肺がん 26 例、 転移性肺腫瘍 5 例

地域のみなさんへのメッセージ —肺がん—

- 健康診断や他の病気の精査中にたまたま肺腫瘍が見つかることは珍しくありません。肺がんでなく感染症であったり、肺がんでも治療を急がない状態のこともあります。肺の腫瘍は自覚症状が少ないため定期的な検査が必要となります。
- 呼吸器外科はすぐに手術が必要な患者さんだけが受診する科ではありません。健診で異常を指摘されたり、以前から指摘されている陰影が大きくなってきた場合などは一度受診してください。

手術担当医師（肺がん）



呼吸器外科医長

くすもと ひでのり
楠本 英則

10. 腎がん

担当診療科：泌尿器科



当院の腎がん手術の特徴

- 腎がんのうち小径（4cm 以下）については主としてロボット支援腎部分切除を、比較的大きな腎がんに関しては、腹腔鏡下またはロボット支援下の根治的腎摘出術を行っています。

当院の腎がん手術の実績（2024年度）

- ロボット支援腎部分切除術：20 例
- ロボット支援根治的腎摘出術：7 例
- 腹腔鏡下根治的腎摘出術：4 例

地域のみなさんへのメッセージ —腎がん—

- 腎がんは症状が出にくく健診や人間ドックなどで発見されることが多いですが、特に早期発見外科的治療が重要です。

11. 膀胱がん・尿道がん

担当診療科：泌尿器科



当院の膀胱がん・尿道がん手術の特徴

- 経尿道的手術で組織採取と根治切除を目指します。
- 病理組織診断結果で筋肉層への浸潤が認められた場合は抗がん剤治療をおこなった上で膀胱・尿道をロボット支援手術で全摘し、尿路変更を行います。

当院の膀胱がん・尿道がん手術の実績（2024年度）

- 経尿道的膀胱腫瘍手術：173 例
- ロボット支援下膀胱全摘術：8 例（回腸導管造設：6 例、尿管皮膚瘻造設：2 例）

地域のみなさんへのメッセージ —膀胱がん・尿道がん—

- 膀胱炎のような頻尿や排尿時痛のない肉眼的血尿が唯一の症状となることがほとんどです。いったん血尿は止まっても必ず泌尿器科を受診してください。

12. 前立腺がん

担当診療科：泌尿器科



当院の前立腺がん手術の特徴

- 手術対象症例では全例でロボット支援下に前立腺を全摘しています。
- 性機能温存を希望される場合は前立腺生検の病理結果を踏まえてご相談に応じ、適切な症例では片側または両側の勃起神経温存を行っています。

当院の前立腺がん手術の実績（2024年度）

- ロボット支援前立腺全摘術：64 例

地域のみなさんへのメッセージ —前立腺がん—

- 前立腺癌マーカー、PSA による健診が普及し、男性のがんの中で最も多いがんといわれています。PSA が異常値の場合は泌尿器科を早めに受診してください。

13. 精巣がん・男性生殖器がん等

担当診療科：泌尿器科



当院の精巣がん・男性生殖器がん等の手術の特徴

- 鼠径部に切開をおく高位精巣摘出術を行っています。
- 病理結果に基づき抗癌剤治療が必要な場合は大阪大学泌尿器科と協力し、術後化学療法などを考慮します。

当院の精巣がん・男性生殖器がん等手術の実績（2024年度）

- 高位精巣摘出術：6 例

地域のみなさんへのメッセージ —精巣がん・男性生殖器がん—

- 精巣は体表から触れやすく、自分でも大きさの変化に気づきやすい臓器です。
- 10代の若年者に多く見られますが、60歳以上の高齢者にも発症します。
- 精巣の腫大に気づいたら恥ずかしがらずに、早めに泌尿器科専門医を受診してください。

手術担当医師（腎がん、膀胱がん・尿道がん、前立腺がん、精巣がん等）



泌尿器科主任部長

みやけ おさむ
三宅 修



泌尿器科部長

てい のりひで
鄭 則秀

さとう もとたか 佐藤 元孝	泌尿器科医長
うめだ しゅん 梅田 駿	泌尿器科医員

14. 皮膚がん

担当診療科：皮膚科



当院の皮膚がん手術の特徴

- 悪性黒色腫、有棘細胞がん、基底細胞がん、乳房外パジェット病など皮膚原発の皮膚がん全般及び比較的稀な血管肉腫、メルケル細胞がん、軟部肉腫などの治療を行っています。
- 治療に関しては再建術を含む外科的治療、抗がん剤、免疫チェックポイント阻害剤、分子標的剤などの薬物療法、放射線療法を含めた集学的な治療を行っています。
- 皮膚がんの好発部位である顔面に関しては、完全切除後に整容面を考慮した再建を心がけています。

当院の皮膚がん手術の実績（2024年度）

- 皮膚がん手術件数 99 件
内訳：基底細胞癌 35 件、有棘細胞癌 32 件、悪性黒色腫 13 件、乳房外パジェット病 5 件、ボーエン病 5 件、日光角化症 5 件、血管肉腫 2 件、軟部肉腫 1 件、その他 1 件
- リンパ節郭清 2 例、センチネルリンパ節生検 5 例

地域のみなさんへのメッセージ —皮膚がん—

- 疑わしい病変や気になる病変があればご紹介いただければ幸いです。

手術担当医師（皮膚がん）



皮膚科部長

よこみ あきのり
横見 明典

ごとう のりこ
後藤 範子

皮膚科医員

15. 子宮頸がん

担当診療科：産婦人科



当院の子宮頸がん手術の特徴

- 若年の患者様には、妊娠への影響を最小限に抑えるため、切除範囲や深さ・施行時期を慎重に検討し、妊孕性に配慮した円錐切除術を実施しています。
- 初期浸潤癌が疑われる場合には、まず円錐切除で正確な病期診断を行い、適切な術式を選択しています。
- 手術による根治が期待される症例は、必要に応じて阪大病院をご紹介し、スムーズな診療連携のもと最善の治療を提供しています。

当院の子宮頸がん手術の実績（2024年度）

- 子宮頸部円錐切除術 45 件
- 子宮頸癌手術 3 件

16. 子宮体がん

担当診療科：産婦人科



当院の子宮体がん手術の特徴

- 当院では、子宮内膜異型増殖症や初期の子宮体がんに対し、低侵襲で回復の早い腹腔鏡下手術を積極的に導入し、合併症の軽減と QOL 向上に取り組んでいます。
- 妊孕性の温存を希望される若年の患者様には、慎重な評価のもと高用量黄体ホルモン療法を実施し、希望がなくなった時点で適切な手術に移行しています。
- また、高齢の患者様に対しても進行度や全身状態を考慮し、性器出血のコントロールを目的とした子宮全摘術を実施することで、QOL 改善を図っています。

当院の子宮体がん手術の実績（2024年度）

- 子宮体癌手術 24 件（うち腹腔鏡手術 6 件）

17. 卵巣がん

担当診療科：産婦人科



当院の卵巣がん手術の特徴

- 卵巣がんが術前から強く疑われる症例では、術中迅速病理を行い、悪性と診断された場合には系統的リンパ節郭清を含む卵巣がん手術や腫瘍減量術（PDS）を実施しています。
- 進行例で PDS が困難な場合は、審査腹腔鏡での組織診断後に術前化学療法（NAC）を行い、腫瘍減量術（IDS）へとつなげる治療方針を採用しています。
- PDS・IDS では、消化器外科・泌尿器科と連携し、多臓器合併切除にも対応することで、腫瘍の徹底切除と治療効果の最大化を目指しています。

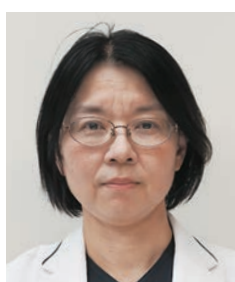
当院の卵巣がん手術の実績（2024年度）

- 卵巣癌手術 26 件

地域のみなさんへのメッセージ —子宮頸がん、子宮体がん、卵巣がん—

- 婦人科がんは、妊娠・出産・結婚・高齢化など、女性の人生そのものに深く関わる疾患です。当院では、若年患者様には妊孕性を考慮した子宮頸部円錐切除やホルモン療法、高齢患者様には合併症管理を含めた安全な周術期体制を整え、幅広い世代に対応しています。
- 地域の先生方と連携を深めながら、患者様一人ひとりのライフステージに寄り添い、科学的根拠に基づいた温かく確かな婦人科がん診療を提供してまいります。ご紹介・ご相談など、どうぞお気軽にご連絡ください。

手術担当医師（子宮頸部がん、子宮体部がん、卵巣がん（卵管がん））



産婦人科主任部長 兼
地域周産期母子医療センター長

つじえ ともこ
辻江 智子



産婦人科部長 兼
地域周産期母子医療センター
副センター長

よしだ すすむ
吉田 晋

わきもと あきのり 脇本 昭憲	嘱託	いしだ きょうそう 石田 享相	産婦人科医長
たかはし りょうこ 高橋 良子	産婦人科医長	かとう まゆこ 加藤 真由子	産婦人科医員
たなか ひろこ 田中 博子	産婦人科医長	もり よしと 森 禎人	産婦人科医員
いとう ゆう 伊東 優	産婦人科医長		

18. 甲状腺がん

担当診療科：耳鼻いんこう科



当院の甲状腺がん手術の特徴

- 甲状腺がんは、甲状腺内にとどまる早期癌の手術を行っています。進行癌で長時間の手術が必要な場合や、術後に放射性ヨード治療が必要な症例は、阪大病院に紹介しています。

当院の甲状腺がん手術の実績（2024年度）

- 甲状腺悪性腫瘍摘出術：9件

19. 頭頸部がん

担当診療科：耳鼻いんこう科



当院の頭頸部がん手術の特徴

- 早期の喉頭癌を治療しています。
- 再発時には救済手術も行っています。
- それ以外の頭頸部癌（舌癌、咽頭癌、唾液腺癌、Stage II以上の喉頭癌等）は、阪大病院に紹介しています。

地域のみなさんへのメッセージ — 甲状腺がん、頭頸部がん —

- 甲状腺に腫瘍が疑われた場合は、適切に診断し、早期癌であれば手術を行います。
- 進行癌であれば、治療可能な施設に御紹介いたします。

手術担当医師（甲状腺がん、頭頸部がん）



耳鼻いんこう科部長

みたに けんじ
三谷 健二

かまくら あや 鎌倉 綾	耳鼻いんこう科医長
よしむら のりひろ 吉村 典紘	耳鼻いんこう科医員

20. 脳・中枢神経のがん（脳腫瘍）



担当診療科：脳神経外科

当院の脳・中枢神経のがん（脳腫瘍）手術の特徴

- 手術用のナビゲータ、手術中の神経機能モニタリング装置などを使用して副作用の軽減と、最大限の摘出を目指しています。
- 悪性の脳腫瘍では、術後速やかに化学療法や放射線治療を行う必要があります。当院は放射線治療装置があり、術前から計画をたてることで速やかな後療法へとつなげています。

当院の脳・中枢神経のがん（脳腫瘍）手術の実績（2024年度）

- 脳・中枢神経のがん（脳腫瘍）手術 40 件

地域のみなさんへのメッセージ —脳腫瘍—

- 悪性脳腫瘍への標準治療のほとんどを行う事ができます。
- 脳腫瘍は病状の進行により日常生活への支障が生じやすい疾患です。生活圏の近くでしっかりした治療を受けられることも選択肢として重要と考えています。

手術担当医師（脳・中枢神経のがん（脳腫瘍））



副院長 兼
脳神経外科部長 兼
脳卒中センター長

にしお まさみ
西尾 雅実

ごとう てつ 後藤 哲	脳神経外科医長
もり こうすけ 森 康輔	脳神経外科医長
みうら しんぺい 三浦 慎平	脳神経外科医員

21. **口** **腔** がん

担当診療科： **歯科・口腔外科**



当院の口腔がん手術の特徴

- 口腔亜領域（舌、上顎 / 下顎歯肉、頬粘膜、口底、硬口蓋）の解剖学的特性（歯、顎骨、唾液腺、筋肉、血管、神経など）を考慮して手術を行っています。
- 初期のがんについては、切除手術後の早期の経口摂取をめざします。口腔がんの約 1/3 ～ 1/4 は頸部リンパ節に転移をきたし、リンパ節を含めた切除（頸部郭清）を要します。
- 切除可能な局所進行がんについては、薬物療法を併用しつつ、切除による組織欠損に応じて当院形成外科と合同で再建手術を検討します（あるいは大阪大学へ紹介します）。なお、薬物療法の著効例では、再建手術を回避した切除単独手術に転換できることもあります。

当院の口腔がん手術の実績（2024年度）

- 口腔がん 21 例

内訳：舌がん 9 例、下顎歯肉がん 5 例、上顎歯肉がん 3 例、頬粘膜がん 2 例、口底がん 1 例、頸部後発転移 1 例

地域のみなさんへのメッセージ —口腔がん—

- 口腔粘膜に発生する病変は口内炎をはじめ、多様です。発生率は低いものの、がんもそのうちの 1 つです。
- 治りの悪い口内炎や増大傾向の腫瘍（できもの）については、かかりつけ医院あるいは歯科医院からの紹介により、当科へ御相談下さい。

手術担当医師（口腔がん）



歯科・口腔外科部長 兼
中央診療局主幹

いまい ともあき
今井 智章

ますい あつし 梶井 敦史	歯科・口腔外科医長
すずき まお 鈴木 真央	歯科・口腔外科医員



がんの手術に関連した 当院の取り組み



手術前の準備を丁寧にサポートします ～患者サポートセンター～

- ・入院が決定した患者さん・ご家族と面談し、入院に必要な情報の聞き取りやアレルギーの確認、入院生活や持参物品について説明します。
- ・看護師や薬剤師、管理栄養士、医療ソーシャルワーカーなどの多職種が関わり、入院前から退院後の生活を見据えたサポートをするために、必要な部門と連携します。
- ・患者相談窓口では、さまざまな相談を一か所で受け付け、各担当者につなぎます。



かかりつけ歯科と連携し合併症を予防します ～周術期口腔機能管理～

- ・がん治療担当医と歯科医師が連携して、がん患者さんの口腔機能管理を実施することにより、「手術」を行う場合のお口のトラブルや誤嚥性肺炎・感染症の予防と、「薬物療法・放射線治療」を行う場合の口腔粘膜炎や口腔内感染等に対するがん治療の支持療法と位置づけ治療の向上をめざすものです。
 - ・2014年4月より、地域の歯科医療機関さまとの連携による「周術期口腔機能管理」を実施させていただいています。（入院中の患者さんに対しては、当院歯科口腔外科による厳密な口腔機能管理を行っております。）
 - ・2016年11月より、薬物療法・放射線療法患者への口腔機能管理を地域の歯科医療機関さまとの連携で開始いたしました。
- ・地域歯科医療連携に関するお問い合わせ、また「周術期口腔機能管理」の歯科連携にご協力いただける場合は、地域医療連携室（地域連携コーナー）に電話（06-6843-0101）でご連絡をお願いいたします。

安全かつ快適な周術期（手術前から手術後まで）のために ～麻酔科、術後疼痛管理チーム～

当院では年間3177件（R6年度）の全身麻酔を行っています。

がんの手術は全身麻酔と区域麻酔（硬膜外麻酔・エコーガイド下神経ブロックなど）を単独または併用して行います。

- ・術前診察では、手術前の患者さんのコンディションを整え、患者さんの全身状態や病歴・手術内容などを考慮し、適切な麻酔方法を提示し説明します。
- ・手術中は、担当麻酔科医が患者さんの状態と手術の進行状況をみながら、麻酔の深さや呼吸や血圧などを適切に調節して、最適の麻酔状態を保ちます。
- ・術後は患者さんごとに鎮痛薬の調整および吐き気などの対策を行い、安全かつ快適な術後を過ごせるように努め、早期回復を目指します。
- ・重篤な合併症のある患者さん、大きな手術後で経過観察が必要となる患者さんは、術後に集中治療室（ICU）に入室します。麻酔科と診療科医師が協同して、よりきめ細やかな術後管理をします。

●術後疼痛管理チーム

手術を受ける患者さんは術後の痛みについて不安や心配を抱えている方が多いと思います。術後疼痛管理チームは、手術後の痛みや吐き気などの苦痛に対して専門的に関わるチームです。痛みの程度を0～10の数字で患者さん自身に表現してもらいます。それを元に薬の調整を行います。安全で痛みや吐き気の少ない手術を目指しています。術後の痛みや吐き気に不安がある方は遠慮なく術後疼痛管理チームにご相談下さい。

術後の体力低下を予防します ～栄養療法とがんリハビリテーション～

・栄養サポートチーム（NST）

NSTは医師、歯科医師、管理栄養士、看護師、薬剤師、PT（理学療法士）、OT（作業療法士）、ST（言語聴覚士）、臨床検査技師などの様々な医療専門スタッフが力を合わせ、患者さまの健康を栄養面から全面的に支えています。



・がんのリハビリテーション治療

がん治療の一環として、リハビリテーション科医とリハビリテーション専門職により提供される医学的治療を行っています。

他疾患のリハビリテーションと同様に、患者さまの状況や希望に応じて行う訓練であり、QOL（生活の質）を向上させることを目的としています。

当院では、患者さまが「前向きに治療に臨める」「退院後により良い生活が送れる」などを目標に、リハビリテーション職種（PT、OT、ST）だけでなく、看護師や医療ソーシャルワーカーなどのチームでリハビリテーションを行っています。

様々な術後感染症を予防します ～感染対策室～

- ・**手指衛生の取り組み**・・・感染対策の基本は、手指衛生（手洗い）です。それは、手指が菌やウイルスを最も感染伝播させているからです。そのため、当院では、定期的に実際の手指衛生の実施状況をモニタリングして改善に繋げています。
- ・**手術部位感染予防の取り組み**・・・手術部位感染の発生状況をモニタリングし、発生状況によっては、科学的根拠に基づいた感染対策について手術部スタッフと検討し、改善につなげています。
- ・**環境ラウンド**・・・感染対策チーム（ICT：infection control team）と共に、感染に関する安全な病棟環境や療養環境を維持する目的で、毎週病棟の巡視およびチェックを行っています。
- ・**抗菌薬適正使用ラウンド**・・・抗菌薬適正使用支援チーム（AST：Antimicrobial Stewardship Team）と共に、感染症治療において、抗菌薬の使用を適正に行う目的で、毎週担当医師に対して提案や助言を行っています。
- ・**院内研修**・・・病院での感染対策の充実を図るために、全職員に対して年2回大規模な講習会を開催しています。また、定期的に感染対策や抗菌薬に関する研修を開催しています。

身体への負担を少なく ～内視鏡部～

- ・当院内視鏡部では消化器内視鏡検査および気管支鏡検査を行っています。
- ・消化器内視鏡部門は日本消化器内視鏡学会指導施設に認定され、日本消化器内視鏡学会指導医4名、専門医（指導医含む）8名をはじめ消化器内視鏡スタッフ15名を擁し内視鏡検査や治療にあたっています。
- ・気管支鏡部門は日本呼吸器内視鏡学会気管支鏡指導医1名、専門医2名をはじめ気管支鏡スタッフ5名で検査を行っています。
- ・「地域がん診療連携拠点病院」としてがんの診断はもとより早期がん（食道・胃・大腸）に対する内視鏡的粘膜下層剥離術（ESD）や進行がんに対する狭窄部へのステント留置などを積極的に行っています。
- ・内視鏡検査の苦痛軽減のため、通常の内視鏡検査でもご希望の患者さまには鎮静剤を使用し検査を行っています。
基礎疾患や年齢等により全ての患者さまで使用できるわけではありませんが、ご希望の方は検査予約時に担当医にご相談ください。

がんに伴うあらゆる苦痛をやわらげます ～緩和ケアセンター（緩和ケアチーム）～

- ・私たち医療者は、これから病気と向き合っていく患者さん・ご家族の力になりたいと考えています。
- ・「緩和ケア」と聞くと、がんの終末期医療をイメージされていませんか。
緩和ケアとは、終末期だけでなくがん患者さんの身体的な苦痛や精神的な不安を少しでも和らげるためのサポートを行い、「がん」と診断されたその日から、並行して行われる医療です。



- ・患者さんの希望や意向を尊重した医療やケアを提供できるように、多職種からなる緩和ケアチームを結成し、それぞれの専門性を発揮しながら緩和医療を行っています。

ご希望の方は診療科主治医にご相談ください

その他 がんに関するよろず相談 ～がん相談支援センター～



ひとりで悩んでいませんか。

相談無料

がん相談支援センターのご案内

がん相談
支援センター
とは

がん患者さんとそのご家族の疑問や不安・悩みをお伺いし、がん専門の相談員（医療ソーシャルワーカーや看護師）が、問題解決のお手伝いをします。

- ✳️ **がんかもしれない・・・**
○がんの予防や検診、どんな治療や検査があるのか知りたい
- ✳️ **がんと言われたが・・・**
○一般的な治療についての情報を知りたい
○医師から病気や治療の説明を聞いたが、理解できなかった
○医療費や生活費が心配
○仕事と治療の両立が不安
○将来子どもが欲しくなるかも、治療による影響があるの？
- ✳️ **セカンドオピニオンを受けたいが・・・**
○セカンドオピニオンって何？どこで受けることができるの？
- ✳️ **がん治療を受けているが・・・**
○気持ちが落ち込む、イライラする・・・
○患者・家族とどのように接すればいいの？
○緩和ケアって何？どこで受けることができるの？
○ホスピス、在宅サービスについて知りたい
- ✳️ **他にも**
○がんゲノム医療って何？
○AYA（思春期・若年成人）世代の将来への不安（就労、結婚、子育てなど）

お気軽にご相談ください



毎月開催

がん患者さん・ご家族の交流の場として
「とよなががんサロン」
「Toyonaka AYAトーク」

がん患者さん対象の就職相談会として
「ハローワーク池田出張相談会」

受付時間

月曜日～金曜日（年末年始・祝日を除く）
午前9時～午後4時30分

ご利用方法

相談方法 ※予約優先

面談・電話・FAX・メール・オンライン（ZOOM）
相談時間 30分程度

受付・予約

電話の場合：「がん相談支援センター」までお電話ください。
☎06-6843-0101（代表）
来室の場合：患者サポートセンター「がん相談受付」にお越しください。
オンライン相談ご希望の方はホームページをご覧ください。



※受診先が当院・他院どちらの場合も相談できます。 ※通話料および通信費は利用される方のご負担になります。
※匿名による相談もできます。また、相談で知りえた情報を相談者の同意なく、第三者（主治医等を含む）に伝えることはありません。

市立豊中病院
がん相談支援センター

〒560-8565 豊中市柴原町4-14-1
TEL:06-6843-0101(代表)
FAX:06-6858-3513
Email: gan-shien@chp.toyonaka.osaka.jp

◎ウェブサイトはこちらから

市立豊中病院 がん相談支援センター 検索



市立豊中病院のがんの手術 2025

発行 令和7年(2025年)9月

編集 市立豊中病院 がん診療部(がん相談支援センター)

〒560-8565 豊中市柴原町4-14-1



市立豊中病院

Toyonaka Municipal Hospital

〒560-8565 大阪府豊中市柴原町4丁目14番1号

TEL (06)6843-0101 FAX (06)6858-3602

FAX (06)6858-3555【予約】

(URL)<https://www.city.toyonaka.osaka.jp/hp/>